

酪農乳業における女性の活躍

IDF「酪農乳業における女性に関する報告書」第2号より

国際酪農連盟 (IDF) は、酪農乳業界で働く女性のエンパワーメント(地位向上)のために加盟国と関連国際機関で行われている活動を、「酪農乳業における女性に関する報告書」第2号(以下「報告書」という)にまとめた(*1)。報告書は、女性たちが支援を受けながら活躍し、食料システムのさまざまな課題にどのような役割を果たしているかについて、いくつかの事例を紹介している。特に、国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」の達成に向けたさまざまなイニシアチブや調査研究に着目している。以下に報告書の仮訳(*2)を要約して紹介する。

酪農乳業における女性に関する報告書とは

IDF は、酪農乳業で働く女性の重要な貢献が高く認識されることと、女性のエンパワーメントが、国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」では特にジェンダー平等の達成とすべての女性・女児のエンパワーメントを目指す SDGs目標5の達成に不可欠であることを強調している。

2022年に設立された「酪農乳業における女性に関する IDF 特別作業部会」は、酪農乳業全体でジェンダー平等の推進と、女性の役割の強化に取り組み、酪農経営、乳業、科学、政策、ガバナンスなどの領域において、その意義の認識を高めることを目的としている。特別作業部会が中心となってまとめた IDF「酪農乳業における女性に関する報告書」は、世界の酪農乳業界での女性の変革者としての役割を称え、栄養改善や生計向上から、家族の収入増加、教育機会の拡充に至るまで、酪農乳業界が女性の地位向上とジェンダー平等の促進において重要な役割を果たしていることを強調している。

報告書では、2つの国際機関の事例を始め、全大陸にわたる16の事例を紹介している。これらの事例は、地域コミュニティから国際的プラットフォームに至るまで、女性が酪農乳業の成長だけでなく、福祉と持続可能性の向上にも貢献

していることを示している。

地域コミュニティにおける女性酪農家・起業家のエンパワーメントと活躍

世界では、女性たちが、大小3700万戸の酪農場を経営しており、8000万人の女性が酪農生産に従事している。女性は食料の半分を生産し、酪農乳業界にも大きく貢献しているが、農業・食料システムにおけるジェンダー平等の達成には大きなギャップがある。世界中で、女性には農業生産性と生計を向上させるための土地、家畜、資材、技術、資金へのアクセス機会が不足し、女性は男性よりも利益の少ない商品を売買しており、女性の平均収入は男性の82%である。これらのギャップを埋めることで、食料安全保障や栄養が大きく改善され、経済成長が促進されるだろう。

以下、各国の取り組みを紹介する。

【バングラデシュの事例】

バングラデシュでは、自分で事業を行い収入を確保しようとしている農村部の女性たちに、訓練、支援、市場へのアクセスを提供し、事業で成功するために必要な知識と技能を習得できるよう支援が行われている。需要は高いが製品の

入手可能性が限られている場면을戦略的に特定し、デジタル研修ツール、販売管理プログラム、及び製品を初期資源として提供した。一つの成果として、女性たちはアーラ社の手頃な粉ミルクを販売することで継続的な収入が得られ、多くの意欲的な女性に社会経済的な影響を与えた。また、女性たちは、地域コミュニティで栄養に関する情報を広める役割を一層積極的に果たしている。

【チリの事例】

チリでは、酪農場の 15～20%を女性が経営していると推定される。15 年前、20 人の女性酪農家が、国立研究所と協同組合の獣医師に支援を得て集団化した。技術的なテーマに従って、農場管理の実践を見直し、経験を共有し、互いに学び合うことを重視している。持続可能な農業慣行と家畜福祉を促進し、より広範な環境問題に対処しつつ、牛乳乳製品の品質と生産効率を向上させることに重点を置いている。成功の要因は、この女性たちの集団としての強さと、高水準の技術的な議論の両方が達成されたことにある。活動のおかげで家族経営の酪農場は大きく成長し、現在では生産データに基づいた財務管理と戦略的な計画立案に携わり、農場認証、持続可能性や家畜福祉に関する資格取得、農場でリサイクルと廃棄物管理などを積極的に推進している。今日では、チリの活気ある業界としての酪農乳業での協力と技術イノベーションの代表例となっている。

【エジプトの事例】

エジプトの国内生乳生産は、需要の 65～72%しか満たしておらず、残りは粉乳の輸入で賄われている。小規模酪農家は総生乳生産量の約 85%を占め、食料安全保障に重要であるが、生産は自給自足または堆肥などの副産物

のためであり、公式な生乳販売ルートがなく、品質や安定した収入を確保できない状況であった。水不足、気温上昇、土壌の塩分濃度上昇などの環境問題にも直面し、訓練、資金、市場インフラなどへのアクセスにも苦勞している。

CARE エジプト社、ダノン・エコシステム社、ダノン・エジプト社による、アルバン・バラドナプロジェクトは、生産者に対する訓練、獣医サービス、インフラ投資による集乳センターの拠点化などの包括的な支援を提供している。プロジェクトの中心はこれまで取り残されていた女性のエンパワーメントであり、女性たちは、コミュニティのリーダーとして採用され、訓練を受け、生乳の生産量の増加と品質の向上、収益増をもたらした。8500 人の雇用が創出され、その 95%は女性で、2 万 7000 人を超える家族、地域のコミュニティにプラスの影響を与えた。コミュニティを中心とし、ジェンダーに配慮した手法は、今後の持続可能な発展にとって重要である。

【インドの事例】

インドには 6700 万を超える酪農場があり、3 億頭を超える牛と水牛がいて、世界最大の乳牛飼育頭数を誇り、世界の生乳生産の 24.6%を占めている。小規模農家にとって、酪農は雇用と家計収入の重要な手段である。酪農での搾乳、給餌、生乳の配達などの作業は女性が行っている。インド各地の酪農場での能力開発の取り組みにおいて、女性に焦点を当て、農場管理、獣医による家畜ケア、高品質な生乳生産に関する教育を受けることで、小規模農家の酪農場が利益を増やし、乳用牛が健康になり、常に最高品質の生乳生産ができるようになる。農場の内外において、女性のエンパワーメントのための新たな機会も作り出される。

インドのアジャープラ酪農協同組合は、酪農

生産が主要な生業であるコミュニティのネットワークと信頼を活かし、さまざまな社会経済的な課題に取り組み、農村開発とジェンダーエンパワーメントに変革をもたらしている。約 2 万 5000 人の女性が、同組合の酪農経営のベストプラクティス、付加価値商品の加工製造、キノコ栽培や養蜂などの酪農以外の経営に関する訓練を受け、女性の生計手段の改善、社会経済的地位の大幅な向上、リーダーシップの強化、コミュニティの関与の促進、より広範な社会経済の発展に寄与している。収入とリーダーシップの役割を増やすことで、旧来のジェンダー規範(男女の役割に対する社会の意識やルール)を改革し、ジェンダー平等を促進している。この事例は、多面的な支援と市場アクセスが、農村環境において持続可能な社会経済の発展とジェンダー平等を促進できることを示している。

インドのアボット社が、2022 年に酪農乳業における能力構築の取り組みとして Ksheersagar プロジェクトを始めた目的は、高水準の生乳品質の実現、高品質の生乳購入可能量の増加、訓練や資本へのアクセスなどによる女性への力の供与、家畜のケアに関連するベストプラクティスの実施などである。マハーラーシュトラ州とアンドラ・プラデシュ州で、70 人を超える酪農普及員が 1 万 2000 人の酪農家を教育し、教育と報奨金を通じて生乳品質を向上させることに重点を置いている。同プロジェクトは、ターゲットを絞った訓練と、生乳代金の支払いを女性に直接行うことにより、女性酪農家のエンパワーメントも行っており、4000 人以上の女性が自身の銀行口座を開設し、6000 人以上の女性に日々の生乳代金への直接支払いが行われるという成果が実証された。また、42 カ所の小さな地方銀行が女性従業員によって運営され、農場外での雇用と社会関係資本(公共施設など)へのアク

セスの両方を提供している。さらに、酪農のベストプラクティスの実施後、労働時間が 1 日あたり平均 4 時間短縮された。

インドの世界最大のマングローブ林として知られるユネスコの世界遺産に登録されたシュンドルボンにある生乳・家畜生産者協同組合は、2015 年にインド全国酪農開発委員会(NDDB)から技術的支援を受けて活動を開始した、女性のための先駆的な有機酪農協同組合である。女性主導の組合を支援することで、ジェンダー不平等、貧困、食料不安など多くの課題に取り組み、女性酪農家に経済的機会を提供し、彼女たちの生計手段と意思決定力を高めている。中心となる行動は、女性主導のガバナンスと運営に焦点を当てた協同組合の再構築、有機農業の実践、多品目生産への多様化、女性組合員の有機農業、酪農経営、リーダーシップなどの能力開発である。

4500 人以上の女性有機酪農家の生計の支援、2023~24年に140万米ドルの収益を達成、組合員から購入する製品の公正で透明な調達システムの確保、各自の銀行口座へのデジタル支払い、有機酪農実践のシステム導入、成果を監視する女性モニターの育成、150カ所以上の家庭に牛糞を用いたバイオガспラントの設置と肥料としての活用、有機牛乳、ギー、蜂蜜の認証、モバイルアプリによる販売、乳ベースの伝統菓子ミスティを販売する専門店開設などの成果を上げている。同組合は、女性が成功するために必要なツール、リソース、機会を提供し、女性のエンパワーメントとリーダーシップにおいて大きな進展を遂げた。女性は同協同組合内で重要な指導的地位を占め、意思決定と戦略的方向性を推進し、経済的自立の強化は、女性たちの交渉力と経済的地位を高めている。インド国内では NDDB とインド商工会議所連盟

(FICCI)の賞を受賞し、IFOAM アジアからはイノベーションと女性のエンパワーメントに関する国際的な認知を受けている。

同組合は、シュンドルボン地帯の 75 村落で女性主導の有機酪農が成功したことを基に、デルタ地帯の中州全体の 250 以上の村落にその活動を拡大する計画であり、約 1 万 5000 人の女性酪農家を巻き込み、有機農業を推進して、組合員の繁栄を確保し、デルタ地帯の環境の持続可能性を高めることを目的としており、経済安定性と財政の実行可能性を確保するため、規模の経済の構築にも注力している。

【ケニアの事例】

ケニアでは、牛乳や関連商品への需要が高く、スタートアップ資本と運営コストが比較的安く、女性が家事と並行して活動を運営できるため、牛乳販売は女性にとって魅力的な事業である。

しかし、女性には、生産者から直接の生乳の調達を困難にしている移動制限の厳しいジェンダー規範、ビジネススキル、そして牛乳販売事業の拡大のための資本アクセスの欠如などの制約が存在しており、無許可の販売人として非公式取引に集中している。また、移動制限は女性が仲介者に頼らざるを得ないためコストを増加させ、供給の信頼性を低下させ、品質管理を難しくしており、女性主導の牛乳販売事業の持続可能性に悪影響を及ぼしている。さらに、女性は、仲買人との間での価格交渉力や腐敗した生乳に対する補償を請求する交渉力が不足していることも多く、通常は低い利益率に終わる。

ベンダービジネススクールは、事業と食品取り扱いのスキルを向上させることを目的とし、新鮮な牛乳を販売する露店商、食品小売業者、ミルクバーなど、牛乳市場チャネルで活動する女性の牛乳販売人を支援している。女性の販売人は、増加した利益を活用して事業を拡大し、

家庭生活を改善し、また、衛生的な牛乳の取り扱い、安全な消費に貢献することが期待されている。このプロジェクトは、女性の牛乳販売人にとって、より健康的なコミュニティと、より利益が得られる持続可能な事業の両方を促進している。将来的に、酪農乳業公社と協力して、女性と男性の両方を巻き込む形式に改良し、酪農乳業界における平等な機会の促進を目指している。

ケニアの多くの地域では、酪農場は伝統的に男性が支配しており、女性や若者は所有権、意思決定、経済的利益から疎外されている。Weezesha イニシアチブは、現代の農業技術を女性と若者に教育し、積極的な参加を促すことで、長年の不均衡、障壁を打破し、より包括的な農業分野を作り出すことを目指している。

このプロジェクトは、ジェンダーに基づく偏見を排除し、経済的自立を向上させ、女性と若者が家庭やコミュニティの意思決定プロセスで意見を述べられることを目指している。

同イニシアチブは、主に女性が形成する非公式な貯蓄・信用グループである「メリーゴーランド」グループに参加し、酪農経営について話し合う。定期的に一定の資金を貯蓄し、1 人のメンバーに対して 1 回ずつ渡され、小規模事業の資金、学校の費用支払い、緊急費用を賄うなど、個人または家族のニーズに投資することができるようになる。公式の銀行サービスへのアクセスが制限される場合があるため、このグループは、特に農村部や都市部の女性の経済的エンパワーメントに不可欠であり、女性の中にコミュニティ、信頼、相互支援の意識を育み、社会的な絆を強化し、リーダーシップの役割の交代制、社会的な集会、さらには土地や不動産を共同購入するなどの大規模事業への共同投資といった活動に発展することがある。このようなグループはケニアの非公式経済の重要な部分であり、

女性が経済的自立を達成し、生活水準を向上させることを可能にしている。

同イニシアチブによって、女性や若者による酪農場の取り組みが大きく改善され、より効率的な牛群管理、生乳生産量の増加、乳腺炎発生の抑制、生産コスト低下による財務改善などの成果が見られている。女性と若者の双方にとって酪農経営の生産性、経済的安定性が向上しただけでなく、経済的自立と社会的公平性も育まれ、より持続可能で豊かなコミュニティに導けることを示している。

ケニアでは、生きた家畜のバリューチェーンは、農村地域の重要な構成要素である。このバリューチェーンには、家畜だけでなく、牛乳のような家畜関連製品の生産、加工、流通、消費が含まれる。生きた家畜と牛乳のバリューチェーンの重要性にもかかわらず、十分な参加と恩恵を得る可能性が妨げられている。

現状について包括的な理解を得るために、2024年3月に実施された研究は、ケニアのワジリ郡とガリッサ郡の女性と男性の経済的、社会的、文化的な生活における家畜の中心的な役割を強調しており、女性について資本へのアクセスの制限や安全上の懸念があり、ジェンダー特有の障壁や課題を特定し、女性に対する安全強化、ジェンダー研修、集団形成、市場アクセス強化など、ターゲットを絞った介入の設計や実行可能な推奨事項を提供している。この研究の結果から、女性と男性の双方が生きた家畜と牛乳のバリューチェーンに従事し、そこから恩恵を得るため、有益で実現可能な環境整備を促進することも可能である。

この研究では、家畜と牛乳のバリューチェーンにおける女性のエンパワーメントのため、女性の市場参加が、物流支援や女性を対象とした取引グループの創設などいくつかの新しい機

会に光を当てている。女性のニーズに合わせた小口金融商品の開発は、事業拡大や持続可能な慣行への投資資金を女性に提供することができる。ジェンダーに関する研修や啓発活動などのターゲットを絞った訓練は、女性のスキルを高める機会を提供し、経済および環境の課題に対する女性の強靱性を高める。男女双方を対象としたジェンダー研修は、これまでのジェンダー規範に対する重要な反省と意識改革につながり、女性が直面するジェンダーによる制限という問題に向き合うよう促すことができる。

乳業会社での女性のエンパワーメントと活躍【中国の事例】

中国の蒙牛社は、創業以来、女性委員会を設置し、女性従業員の法的権利を経営の重点項目の一つとしている。蒙牛は、女性向けの機能性栄養食品の開発に注力することで、女性の健康の権利を高め、人生のすべての段階の女性の健康ニーズに対応している。中国における栄養士の利用の難しさと、家庭に対する健康サービスの高コストという課題に取り組むことで、蒙牛はより多くの消費者が高品質の栄養と健康サービスの恩恵を受けられるよう努めている。

蒙牛の女性のエンパワーメントに関する取り組みは、キャリア機会を提供し、従業員の幸福と企業の競争力を高め、女性の権利とジェンダー平等を促進している。

【ニュージーランドの事例】

ニュージーランドのフォンテラ研究開発センター (FRDC) は、特に酪農乳業界において、STEM(科学、技術、工学、および数学)分野における女性のエンパワーメントを目的に、メンターシップ、専門能力開発、リーダーシップ研修のプログラムを開始した。50年以上前にフォンテラ大学院技術プログラム (FGTP) が創設され

て以来、この環境は、女性に平等な機会を提供している。こうした活動は、女性が STEM 分野で優れた役割を果たしてイノベーションの雰囲気を醸成し、他の組織の模範となり、平等な機会の重要性を強調し、より包括的で前向きな考え方で影響力のある協同組合となることを推進している。

その結果、専門職 STEM の女性就業者数はわずか 28%であるという格差がある一方、現在 FRDC のリーダーシップチームの 64%は女性であり、46 カ国を超える国籍の職員の中で研究開発の全職員の 50%が女性である。

フォンテラ社の取り組みは、STEM分野、特にニュージーランドの酪農乳業界で、女性比率が低いという問題に対処する重要な一歩であり、ジェンダー平等だけでなく、多様な視点の価値も認識している。フォンテラは、女性や女兒が STEM 専門職を追い求めるよう奨励することで、酪農乳業において新しい機会を開いている。多様性のあるチームには、複雑な課題に取り組む能力があることから、日々進化する牛乳製品市場において、これは極めて重要なことである。

牛乳の紙パックを利用した女性の権利の保護

【ブラジルの事例】

ブラジルは女性への暴力が深刻な危機に直面しており、女性の殺害率が世界で 5 番目に高くなっている。この問題は新型コロナウイルス禍によって悪化し、家庭内暴力は増加し、支援体制が喫緊の課題となった。ボランティアが運営する「正義の人」プロジェクトは、ラクタリス社の UHT 牛乳の紙パックを活用して、ブラジル全土の家庭内暴力に苦しむ被害者に効果的に支援チャンネルを伝えている。他の乳業会社も参加し、各ブランドの約 2 億本の UHT 牛乳パックに印刷された QR コードから支援ネットワークにアク

セスできる。「正義の人」プロジェクトは、目覚ましい成果を挙げており、ブラジル全土および世界の 27 カ国超で 1 万 3000 人以上のボランティア、司法、健康、心理学、社会支援、および受け入れ先の専門家が参加し、被害者の支援にあたっている。

女性の活動の調査と広報活動

【イタリアの事例】

イタリアでは、食と伝統の繋がりが深く、酪農乳業が国の文化遺産で大きな役割を果たしている。伝統と革新の両立には、生産、経済、環境、消費者需要など、さまざまな要因が進展する中で、酪農乳業界の複雑性を管理する特有の能力を持ち、過去と未来を見据えて行動する女性が不可欠である。

そのような重要な役割がある一方、酪農乳業界で働く女性の割合は 2012 年から 2017 年まで 28%で変化していない。女性の雇用を促進し、業界での役割を高め、このギャップを解消することにより、イノベーションを育むだけでなく、酪農乳業界の豊かな伝統と知識の保全、それらの次世代への継承も確実に図られ、イタリア文化を特徴付ける伝統と革新の微妙なバランスが保たれることを目指して、ファクトシートを作成している。

2 年前から実施されているこのプロジェクトは、イタリアの酪農乳業界に対する女性のかげがえのない貢献を称えるため、「ミルクと共に歩む、昨日、今日、明日の女性たち」というタイトルのファクトシートを毎年作成している。

ファクトシートは多くの畜産農場、チーズ工場、加工施設で人目に付くように掲示され、好意的な反応を受けている。この取り組みにより、酪農乳業界で生産、販売、マーケティング、コミュニケーションに携わる女性たちの貢献度とスキルが大幅に向上した。酪農乳業界で働く女性たち

の帰属意識(業界に貢献しているという自己肯定感)を育むこと、またすべての経営者に女性の重要な役割を認識してもらうことも含まれる。ファクトシートは、酪農乳業界のすべての経営者に効果的に届く単純なツールである。ファクトシートは、さまざまな分野にわたり正確で関連性のある情報提供を進めるための貴重な情報源として役立つ。すべての参加者が重要な問題に関与し、業界内での女性の貢献とエンパワメントの重要性について理解を深めることができる。

【米国の事例】

米国の酪農乳業界では、女性は以前より多くの機会を得て代表や管理職に昇格する女性が増え、給与が上がり、女性の貢献に対する認識が高まっている。しかし、こうした進展にもかかわらず、女性は依然として障害に直面している。

国際乳食品協会(IDFA)が2023年10~11月に酪農乳業界の加工業者、農業協同組合、農場、小売業者、供給業者などで働く、さまざまな年齢・職務・経験レベルに属する548人の職業人(女性396人、男性152人)にオンライン調査を行った。その結果をまとめた2024年の「酪農乳業で働く女性の実態に関する報告書」は、女性の機会を制限する態度、信念、行動、方針に関してデータに基づく指標を開発し、洞察(業界における女性の立場の真相)を得ることを目的とし、酪農乳業における女性の不平等が依然として存在するかどうかを特定した。2024年1月に開催されたIDFAのデーリーフォーラムで調査結果と提言が発表され、専門家パネルが新しいデータについて議論し、業界がジェンダー平等を促進するために取るべき措置についての見解を共有した。

IDFAは、調査で認識された不平等に対処するため、酪農乳業向けスキル開発プログラム、

報酬監査、人材支援などに関する6つの提言を行った。この調査結果は、酪農乳業界が直面している課題に関してベンチマークを効果的に提供し、女性が直面している不平等について中立的で透明性のある客観的な議論を促進した。さらに、調査結果は、酪農乳業の業界においてジェンダー平等に関する将来のプログラムの立案、戦略、取り組み、方針の開発の指針としても機能し、酪農乳業で働く女性にとってメンターシッププログラムが増加、米国酪農乳業で初の全女性リーダーシップ開発サミットの開催、複数の乳業会社の家族休暇方針の導入、女性支援に関する組織内の新たな議論など、重要な成果を生み出した。

IDFAは、引き続き調査を改善・拡大するとともに、2025年初頭に第2年次の「酪農乳業で働く女性の実態に関する報告書」を発表する予定であり、引き続き支援を継続しようとしている。

女性酪農家を支援する国際的な動き

国連世界食料安全保障委員会(UNCFS)は、これまでに述べられている通り、世界で多くの女性が酪農の生産と経営に従事し、食料供給に大きく貢献しているにもかかわらず、いまだにジェンダー平等の達成には大きなギャップがあるため、そのギャップを埋めることで、食料安全保障、栄養の大幅な改善、経済成長を促進するという目的で、「食料安全保障と栄養の観点におけるジェンダー平等および女性・女児のエンパワメントに関する自主的ガイドライン」の策定に着手することを決定した。

米国乳製品輸出協会の持続可能な栄養担当責任者は、生産性の向上や生計の改善を支援するツールやリソースへのアクセスの改善を目的としたガイドラインを提唱した。女性は一家の食料購入の大部分を決定するため、女性の暮らしや収入を向上させることで、女性自身や

家族のために乳製品のような栄養価の高い食品の購入力を高めることができる。米国の乳製品会社が積極的に始め、支援している女性のエンパワーメントとジェンダー平等を促進するための取り組みが CFS と共有された。

委員会は、数年にわたる審議の末、2023 年 10 月に同ガイドラインを承認した。2026 年の「女性農業従事者の国際年」に向けて進捗中、また 2030 アジェンダと持続可能な開発目標、特に SDG5 の達成に向けて努力する中で、プログラム、政策、取組みがより包摂的で持続可能な食料システムのためにジェンダー平等をどのように推進できるかを注意深く検討し、酪農乳業は引き続き、女性のエンパワーメント、起業、教育の達成、そして活気ある農村コミュニティの触媒となっている。

国際規格 ISO は、2019 年に「ジェンダー対応規格および規格開発に関する国連欧州経済委員会 (UNECE) 宣言」に署名した。ジェンダーのバランスが取れた包摂的な規格開発プロセスを支援し、規格自体のジェンダー対応力を強化する目的で、国際規格の開発におけるジェンダー行動計画を策定・実施することをコミットした。

ジェンダー行動計画の画期的な取組みは、ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女兒のエンパワーメントを行うための国連の持続可能な開発目標 (SDG5) と一貫している。ジェンダー比率に関するデータを積極的に収集・分析し、技術的な仕事におけるジェンダーバランスの達成を目指し、規格がジェンダーに対応し、ISO システム内での多様性と包摂を推進している。

ISO53800:2024 は、組織がジェンダー平等を推進し、女性のエンパワーメントを図る上で不可欠なリソースであり、職場のジェンダー格差や偏見を克服するための戦略を提供する。組織がこの規格を導入することは、経済的・社会的

進歩を促進するだけでなく、企業の社会的責任の核となる価値観とも整合している。従業員の定着率が全く変わり、採用の質は飛躍的に向上し、労働力は強靱性、生産性、イノベーションの力強い源となる。公平なリーダーシップにより、意思決定が多面的となる。

女性が世界の貧困層の大部分を占めているという厳しい現実を反映して、気候とジェンダーのテーマの関係が明らかになってきた。農業のような生業は、気候変動の脅威に常にさらされている天然資源に依存している。女性たちが確保のために重責を担う食料などのライフラインが分断されると、生活の基盤が崩れてしまう。国際規格を取り入れれば、政策を立案し、国際的な気候協定の実施を支援し、気候に関する資金調達の取組みを導くような基盤が提供される。ジェンダー意識と行動に関する規格を取り入れることで、考え方を換え、コミュニティを振興するグローバルな運動に貢献することができる。

農業分野には、全世界で働く女性の 36% を、開発途上地域では 60~70% を雇用しているにもかかわらず、女性は重大な障壁に直面して起業家や地主になる可能性は低く、意思決定の権限も限られ、平均収入は男性の 82% にとどまる。ISO 技術委員会に女性の代表を増やし、影響力を高めることで、こうした格差に正面から取り組んでいる。

参考資料:

- 1) <https://shop.fil-idf.org/collections/publications/products/issue-2-idf-women-in-dairy-report-2024>
Issue 2. IDF Women in Dairy Report 2024
- 2) <https://www.j-milk.jp/report/international/202501report.html>
IDF「酪農乳業における女性に関する報告書」第 2 号 (仮訳)

(資料閲覧:2025年2月)

(担当:Jミルク 国際グループ)